



好調だったのは果実。市場全体の入荷量は同7%増の5万5216ト。東...
 品目別の数...
 ミカン類(23%増)、
 かんきつ類(14%増)、
 リンゴ類(9%増)の伸...

移転前の課題だったスーパーの対応について、同市場で営業する東京シティ青果の鈴木敏行社長は「対応は強まっている」と話す。一部スーパーの取引件数は2倍になったという。
 課題もある。都は移転後の青果物の取引量を日量1300トとする計画を示していた。しかし、移転後の平均日量は931トで前年より増えたが、計画には届いていない。
 産地からは「実需者などの客は圧倒的に大田が多く、仕向け先は変わらなかった」(関東地方のJA)「もっと産地への...

で果実の小さな販売力...
 調だった。野菜の入荷量は同7%増の17万6649ト。販売額は4%減の519億円だった。



シマウマ柄に塗装された牛 (愛知県農業総合試験場提供)

高機能施設の強みを生かした一層の販路拡大が課題といえる。

した。12日午後から13日にかけて、紀伊半島や東海、関東に接近し、上陸...

シマウマ柄でアブ退散

薬剤要らず

ストレス減

愛知県農業総合試験場は10日、白色塗料で黒毛和種の牛を「シマウマ柄」にすると、アブやサシバエなど吸血昆虫の被害を抑えられることを確認したと発表した。牛の体に付着する害虫の数が半減し、牛がストレスを感じて嫌がる行動も少なくなった。薬剤に頼らない新たな害虫対策になりそうだ。
 シマウマのしま模様は吸血昆虫を忌避する機能があるという説が知られている。同試験場は畜産への応用を検討、黒毛和種を白色のスプレー塗料でしま模様塗り効果を調べた。しまの幅は4、5センチ。1頭当たり約5分で塗り終わるといふ。
 結果は、しま模様の牛に付着する吸血昆虫の数が、何も塗らない状態の約半分に減った。尾を打ったり、首を反らせたりという嫌がる行動は25%減。黒色塗料のしま模様を試したが、効果はなかった。
 吸血は牛の大きなストレスだ。休息や食餌が損なわれ、生産性が落ちる。牛白血病を媒介するリスクもある。同試験場は「トラップ捕殺の方法があるが、被害減が見えにくい。しま模様は簡単に塗れて効果も高い」と話す。
 今後は、しま模様を長期間、維持する方法や乳用種の応用を検討。ホルスタインの黒白のまだら模様を、より細かくなるように塗装すれば、忌避効果が得られないかとみている。研究は、京都大学と共同で行った。研究成果は米科学誌『プロスワン』に発表された。

台風19日15時



0キロ以内が風速15以上の強風域。

未来
この

新聞
を創
として
ド・ノ
悪用さ
して
分の目
た。そ
ベル平
実らな
賞式は
日。地